

淀川昔のよもやま話

ちょっと

宮原連合振興町会・宮原社会福祉協議会会長の松阪輝雄さんに、会長が小学生から中学生の頃（昭和30年代）の宮原地域のお話をお聞きました。



松阪会長（写真：右）が20歳の頃の宮原地域。後ろに見える柵はJR北方貨物線の線路の柵。まだ、新幹線の高架はありません。



昭和35年頃の西宮原。当時はこのような農業用水路がたくさんありました。

写真出展：淀川今昔写真館

■大雨が降ると・・・？

住んでいた家の場所は、田んぼより少し低い土地だったので、大雨が降ると床下浸水は当たり前。靴がびしょ濡れと浮かぶようなことがよくありました。その当時は、どこの家もトイレは水洗式ではないから、大雨になると汲み取り式のトイレがあふれて大変でした。周辺のあぜ道もすぐに水浸しになっていました。



■畑と田んぼが広がっていた宮原地域

僕が小学5年生の時、大阪市北区から引っ越してきた頃の宮原地域はJR東淀川駅から阪急三国駅が見えるくらい建物はほとんどなくて、狸が出るほど。宮原操車場の北側は田んぼと畑が広がっていました。まだ新大阪駅も地下鉄御堂筋線もなくて、今の新大阪駅のほぼ北側に東淀川高校が建っていて、南側は「どぶ川」だったのを覚えています。「どぶ川」とみんなが呼んでいた農業用水路が当時の宮原周辺の農地にはたくさんありました。その用水路を使って肥料としての下肥を船で運び、そこから両天秤の先に下肥を入れた桶をつるして担ぎ、畑に撒いていました。また、どこの農家でも畑を耕す為、牛を飼っていました。耕作を終えて帰る牛が疲れて踏切の真ん中で動かなくなってしまい、電車にはねられたというようなこともありました。新大阪駅の工事が始まったころでも工事現場周辺ではまだ、牛を引いている光景が見られました。



手書きの地図で、バス通りが、現在とは違っていたことを説明してくださる松阪会長。

■映画館がたくさんあった！？

当時の今の宮原地域は田んぼと畑がひろがっていて、子どもたちは遊び放題でした。そして、映画もよく見に行きました。まだ、テレビはなかったので、東淀川駅前や三国駅前、西中島など宮原周辺には映画館がたくさんありました。赤胴鈴之助、月光仮面、少年探偵団等、子ども向けの映画が多く、子どもは20円か30円で見るのができたので、自転車で走り回り友達と一緒に片っ端からシリーズものの続きを見に行っていました。

取材：まちセン 井川

「後世に繋いでゆく記憶遺産」

西三国地域活動協議会の役員の皆様にお話を伺いました。



（※写真1）

また、江戸時代に日本国中を測量してまわり、初めて実測による日本地図を完成させた伊能忠敬は、高須にあった「渡邊邸」に宿泊した記録が自敬寺に残っています。

渡邊邸は約400年程前に建てられたとされる市中最古の民家のひとつで、大きな門構えのある大変立派なお屋敷でしたので、地域の方の憧れが「西三国の守り子歌」という歌にもなりました。

渡邊邸は2012年に惜しくも取り壊されてしまい、また近隣に残された数少ない藁葺屋根の家も、現在は取り壊しが進んでいますが、藁葺屋根前にある小さなお地蔵さんは、数々の歴史を見守ってきたかの様に静かに残されています。（※写真2）



「西三国にはたくさん後世に残したい物があったが、ひとつひとつ無くなってしまった。けれど、物は無くなって記憶として地域の人達にしっかりと残っている。渡邊邸や中島用水の歴史など、子や孫の次世代に語り継ぐ事で、この町に住んでいる事に誇りに思ってもらいたい、町を好きになってもらいたい。記憶に留められるように語り継いでいくのが我々の使命です。記憶を遺産として残していく・・・それが「記憶遺産」です。」という言葉が嘉悦会長から頂きました。

そんな西三国の「記憶遺産」は今でも力強く残されています。



（※写真2）

取材：まちセン 村上